

レポート課題

講義で扱ったトゥキディデス、プラトン、アリストテレス、リウィウス、ポリュビオス、キケロ、タキトゥス、セネカ、アウグスティヌス、トマス・アキナス、マルシリウス、マキアヴェリのうち、一人の思想家を選択し、その思想家の書いた文章（教員が配布する）について 2000～3000 字で論じること。レポート内容としては 1. 文章の要約、2. 講義で論じた他の思想家との議論の比較、3. 文章を読んだうえでの自分の主張や批判を含む。（※より詳しい内容については講義中に数十分説明した）

講評

1. 配点について

レポートの三つのパートの配点はそれぞれ 40 点、30 点、30 点であった。したがって字数の配分があまりにアンバランスなレポートは高得点が望めなかったと思われる。

2. 文章について

稚拙な日本語が多く見られた。例えば、「今回は～していく」といった表現を用いる者もそれなりにいたが、「～していく」という表現はレポートに用いるべきではない。「する」でよい。また、改行にあたって空白行を設けるのもやめてほしい。日頃から学術的な文章に慣れておくことと明晰な日本語執筆能力の向上につながり、今後の人生のあらゆる場所で役立つだろう。また教員が配布したレポート例も参考になるだろう。

3. 要約について

日本語を読めていないレポートがかなり多く見られた。要約というのは、文章を読んで、理解したうえで、可能な限り簡潔にまとめる作業である。元の文章を読んでいなくても読者が理解できるような文章こそ、いい要約の条件である。しかし、単に課題の文章を書き写しただけのものや、てきとうにつきはぎしただけのものが散見された。これは多くの場合、教員（おそらくこの授業だけではない）に「この人は文章内容を理解していないから、こうしたのだろう」と判断されてしまう。

またそもそも課題文章に正面から向き合わず、講義内容について要約の部分で書いていたものもあったが、これも要約ではない。ここの箇所では要約を行っていないと 40 点を失ったことになり、多くは単位を落としただろう。

4. 比較について

複数名との比較が望ましいと考えていたため、他の一人としか比較していない場合には点数がそこまで伸びていない。また、講義内で近い回の思想家同士の比較をするだけでは、他の学生と差がつかないのでそこまで高得点になっていない（これはオンライン講義のレポート特有の現象かもしれない）。思想家間の影響関係はロングスパンに及ぶので、そこまで視野を広げて比較してほしい。

例えばプラトンの場合には、アリストテレスとソクラテスを選択した方が多かったが、これら以外にも、キケロ、アウグスティヌス、マキアヴェッリなども容易に比較可能である（しこれは講義で言及した）。それ以外にもいくらかでも比較は思いつく。思想史が線であることを意識してほしい。

5. 自分の議論について

感想のように一行書いて終わらせるものがそれなりにあったが、それでは論理的とは言えないので、必ず理由を書くこと。また「なぜならば～～である」と書けば理由になると考えていると思われるレポートもあったが、それだけでは論理的な説得力を欠くことも多く、形式的に論拠をつけるだけではなく、きちんと論拠を吟味することが要求される。

6. 注について

文献を表記する際には頁（ページ）数まで記すこと。そうしないと、教員がチェックすることが困難になる。また、信頼を欠くオンライン上のブログやまとめサイトなどをあげた場合には、減点になることも多くあった。（これはネットリテラシーに対する注意喚起のためである。）また無言及の引用（てにをはを少し変えただけのものを含む）は剽窃として処理する。